

# 国語科学習指導案(国語総合)

対象学年 第1学年

実施場所 普通教室

## 1 単元名

唐詩に表れた「望郷の思いと惜別の情」を読み取ろう

## 2 単元の目標

- (1) 学習を通して、漢文に興味を持とうとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 漢詩に描かれた人物、情景、心情を読み味わうことができる。 (読む能力)
- (3) 漢詩の構成と訓点について理解する。 (知識・理解)

## 3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①漢詩に描かれている世界に親しもうとしている。	①漢詩に即して、漢詩に描かれている作者の心情をとらえている。	①訓点のきまりと漢詩の形式を理解している。 ②絶句には起承転結の構成があることを理解している。

## 4 指導と評価の計画(全4時間)

時間	各時間の目標	単元の評価規準	評価方法	学習活動
1	・訓点のきまりと漢詩の形式を理解する。	「知識・理解」 ①	記述の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ漢詩を勉強するのか、目標を確認する。</li> <li>・漢詩の形式について学ぶ。</li> <li>・「早発白帝城」(李白)を書き下し文にする。</li> <li>※「早発白帝城」の本文をプロジェクターにて黒板に投影する。チョークで横書き下し文を書き込む。</li> </ul>
2	・絶句には起承転結があることを理解する。	「知識・理解」 ②	記述の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「早発白帝城」(李白)を使い、起承転結の働きについて学ぶ。</li> <li>・「絶句」(杜甫)と「静夜思」(李白)を書き下し文にし、それぞれの句の意味を考える。</li> <li>・書き下し文を手がかりに、ばらばらにした漢詩を正しい順番に並べ替える。</li> <li>※Power Pointを使い、生徒の意見どおりに並べ替えて示す。プロジェクターにて黒板に投影する。</li> <li>・並べ替えた根拠について話し合う。</li> </ul>

3	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢詩に描かれた情景と作者の心情を考える。</li> </ul>	「読む能力」①	記述の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>「黄鶴楼送孟浩然之広陵」の転句の□に入る語を考える。</li> <li>※Power Point を使い、□の中に生徒の答えを入れて、他の答えと比較させる。</li> <li>「送元二使安西」の書き下し文と解釈(漢詩プリント④)を完成させる。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>作者の心情に即して漢詩の解釈ができる。</li> <li>漢詩に親しもうとする。</li> </ul>	「読む能力」①  「関心・意欲・態度」①	記述の確認  行動の観察	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを使ってヒントを得ながら、「送元二使安西」の自分なりの解釈を完成させる。</li> <li>どのような解釈がよいのか話し合いながら考える。</li> <li>それぞれの漢詩における「送る人と送られる人」の視点の違いを再確認する。</li> <li>※第4時では、資料⑤、⑥を使用。</li> </ul>

※ここでは第4時に「関心・意欲・態度」の評価を計画しているが、その評価は単元全体を通して継続的に行うことが大切である。

※赤字で示した部分がIT使用の場面である。

## 5 本時の実際

[第1時]

(1) 本時の目標

- 訓読のきまりと漢詩の形式を理解する。

(2) 指導と評価の実際

学習活動の実際	指導の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> <li>漢詩の学習の目標を確認する。</li> <li>漢詩の形式を学ぶ。(漢詩プリント①【資料①】)</li> <li>「早発白帝城」を書き下し文にする。(漢詩プリント②【資料②】)</li> <li>漢詩プリント②を使い、解釈する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校生にとっての漢詩を学ぶ意義を、説明するよう心がける。</li> <li>前単元の「漢文の訓読を学ぼう」で学習した訓読法を確認させる。</li> <li>※プロジェクターを使用して「早発白帝城」の本文を黒板に投影する。チョークで横に書き下し文を書き込む。</li> </ul>	<p>「知識・理解」①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>訓点について理解しているかどうか、また、漢詩の形式について理解しているかどうかを机間指導しながら、生徒の活動状況を観察したり、ワークシートを確認したりすることで評価する。</li> </ul> <p>[Cの生徒への指導の手立ての例]</p> <p>書き下し文にできない生徒には個別にその場で指導する。漢詩の形式が理解できない生徒には、再度個別にその場で説明する。</p>

[第2時]

(1) 本時の目標

- ・絶句の起承転結の構成とその働きを理解する。

(2) 指導と評価の実際

学習活動の実際	指導の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> <li>・絶句に起承転結があるという説明を聞き、構成を理解する。(漢詩プリント②【資料②】)</li> <li>・「絶句」, 「静夜思」の起句, 承句, 転句, 結句を書き下し文にし, その書き下し文を手がかりにして順不同の句を正しい順番に並べ替え, 元の漢詩に戻す。(漢詩プリント③【資料③】)</li> <li>・並べ替えた根拠について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ書き下し文にできない生徒がいないかを確認する。いるときには適宜指導する。</li> <li>・自分が並べ替えた根拠を考えさせる。「なんとなく」という回答も言語化できるように支援する。</li> </ul> <p>※Power Point を使い, 生徒の意見どおりに並べ替えて示す。プロジェクターを使用して黒板に投影する。</p>	<p>「知識・理解」②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起承転結の構成とそれぞれの句の働きがどのようなものかがわかっているかを, 机間指導しながらワークシートの記述を点検したり, 意見を聞いたりすることで評価する。</li> </ul> <p>[Cの生徒への指導の手立ての例]</p> <p>うまく並べ替えができない生徒にはヒントを与えながら, 作者が一番言いたいのは何の句なのかを推理させる。</p> <p>選んだ根拠を「なんとなく」とした生徒には, 根拠を文章化できるように「どのことばに引っかかりを覚えたのか。」などの質問をしてみる。</p>

[第3時]

(1) 本時の目標

- ・漢詩に描かれた情景と作者の心情を考える。

(2) 指導と評価の実際

学習活動の実際	指導の留意点	評価の実際
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「黄鶴楼送孟浩然之広陵」を書き下し文にし, 転句の空欄に入る語を考える。(漢詩プリント④【資料④ 表】)</li> <li>・なぜその語を選んだのか根拠を出し合い, 全員で作者の心情を考える。</li> <li>・「送元二使安西」について, どのような解釈がよいのか自分で考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その語を選んだ根拠を考えさせる。「なんとなく」という回答も言語化できるように支援する。</li> </ul> <p>※Power Point を使い, □の中に生徒の答えを入れて, 他の答えと比較させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精訳にこだわらせない。</li> </ul>	<p>「読む能力」①</p> <p>漢詩に描かれている作者の心情をとらえているかどうかを, 机間指導でワークシートの記述を点検したり, 生徒の意見を聞いたりすることで評価する。</p> <p>[Cの生徒への指導の手立ての例]</p> <p>空欄補充ができない生徒には再度解釈を確認させ, 作者の心情をつかませる。選んだ根拠を「なんとなく」とした生徒には, 根拠を文章化できるように「どの点に注目したのか。」などの質問をしてみる。</p> <p>訳せない生徒にはヒントを与えつつ, 精訳にこだわらないように指導する。</p>

※赤字で示した部分がIT使用の場面である。

※第4時にIT使用の場面は無いため, 「本時の実際」は第3時までとする。

## 6 IT活用の効果

授業後にアンケートを行った。これは、あらかじめ指導者の側で用意した項目から自分の意見に合うものを選ぶ形式のアンケートである。それによると、「パソコンやプロジェクターを使った授業について、どのような感想を持ちましたか。」という質問に対し、「興味がわいて、面白かった。」、「内容を理解するのに役立った。」、「説明を理解するのに役立った。」という回答が多数を占めた。この結果から、今回のIT活用において生徒の学習に対する興味・関心を喚起する効果や理解を助ける効果、内容理解を助ける効果が見られたことがわかった。ただし、分析にはまだまだ慎重を期すべきだと思われる。

注意すべき点としては、生徒の座席の位置や当日の教室の明るさ、黒板と文字の色などに配慮が必要だということが挙げられる。今回使用したプロジェクターでは「明るい部屋でのプレゼンテーション用」の設定が選択できた。にもかかわらず、黒板に写った文字が見にくいと感じた生徒は全体の4割に達した。

「光の反射で見にくかった。」、「文字の色が黒板の色と同じような暗い色だったので見にくかった。」などが主な意見である。今後は、黒板に投射する際の配慮を十分に行う必要があると感じた。